

刀剣

鹽竈神社博物館は見事な刀剣の数々を収蔵しています。これらの刀剣は全て、江戸時代（1603-1867）に仙台藩（現在の宮城県を含む地域）を治めていた伊達家の歴代当主が鹽竈神社の祭神に奉納したものです。39本の刀剣が奉納されたと記録されており、そのうち35本が鹽竈神社博物館に展示されています。

新しく藩主が着任すると、鹽竈神社の三祭神（製塩の方法を人々に伝授した鹽土老翁神（シオツチノオジノカミ）および戦の神である武甕槌神（タケミカヅチノカミ）と経津主神（フツヌシノカミ））それぞれに1本ずつ、合わせて3本の刀剣を奉納する儀式が行われました。これらの神々は刀剣を奉献したものに寵愛と加護を与えられていました。

これらの刀剣から、伊達家が仙台を治めていた時代の中に刀剣づくりがどのように変化したかを知ることができます。鞘や鐔の精巧なデザインや刃紋の美しさは、仙台藩の刀工が高い技術を持っていたことの証です。

刀剣の他にも、鹽竈神社博物館の収蔵品には仙台藩主が代々身につけた甲冑や兜、大量の地図や書物、そして数学の難問が彫られた大きな木の額などがあります。